

(資料) 導入機能・導入施設の検討に係る調査

■道の駅・SAへのニーズ調査

目的：道の駅やサービスエリアの利用者ニーズを把握し、新設の道の駅に導入することで集客が期待できる機能を把握する。

調査方法：対面
調査日：休日H30/12/15
平日H30/12/18

調査地点	回収数(票)
道の駅くにさき	104
道の駅佐賀関	102
道の駅ゆふいん	111
別府湾SA(上り)	139
別府湾SA(下り)	140
シーガーデンひじ	107



図 調査地点位置図

※平日調査では、日常的な買い物や仕事の途中で訪れるなどの傾向が見られたが、施設機能の要望は休日調査と類似するため結果の掲載は省略する。

■計画地周辺へのニーズ調査

目的：近隣観光地の利用者ニーズを把握し、計画地に導入することで集客が期待できる機能を把握する。

調査方法：対面
調査日：H30/12/15

調査地点	回収数(票)
高崎山自然動物園	107
うみたまご	111
田ノ浦ビーチ	80
かんたん港園	100



図 調査地点位置図

■サイクリストのニーズ調査

目的：計画地に新設する道の駅がサイクリストの立ち寄り場所となることを期待できる導入機能を把握する。

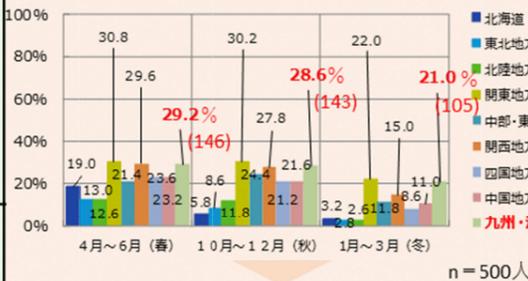
調査方法：全国を対象としたWEB調査
対象：「1年に1回以上スポーツサイクリングをしている」なおかつ「大分県内orしまなみ海道から大分県内のルート」でサイクリングをしたことのある人
回収数：500票(有効回答数)

検討対象地にサイクリスト用拠点がある場合の利用可能性

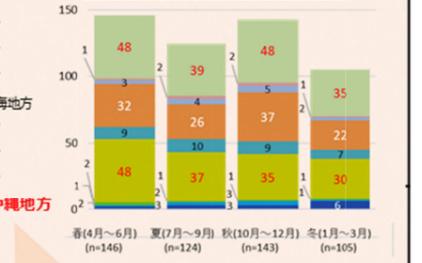


立ち寄る可能性のある人が81.8%いる。
(「立ち寄る」「たぶん立ち寄る」割合の合計)

サイクリングをする場所と時期



九州・沖縄地方でサイクリングする人の居住地



道の駅・SAを訪れる理由

各施設の回答者を全数として、20%以上の票数を獲得した項目のみ抜粋

	道の駅 くにさき	道の駅 佐賀関	道の駅 ゆふいん	別府湾 SA	別府湾 SA	シーガーデンひじ
ここにしかない独自の商品が買える		21%				21%
農水産物とその加工品の種類が多い	30%		20%			38%
お土産の種類が多い			24%			
地元食材を使った料理がある	21%					
トイレがきれい・広い		24%			58%	
景色が良い		22%			47%	
使い慣れている	47%					
近かった	26%					

「商品の独自性、農産物・加工品の種類の豊富さ、トイレの快適さ、景色の良さ」などを道の駅に導入することで、集客効果が期待できる。

道の駅・SAにあれば利用頻度が高まる機能

各施設の回答者を全数として、20%以上の票数を獲得した項目のみ抜粋

	道の駅 くにさき	道の駅 佐賀関	道の駅 ゆふいん	別府湾 SA	別府湾 SA	シーガーデンひじ
【買い物】安い						48%
【買い物】ここにしかない独自の商品がある		35%	20%			42%
【買い物】農水産物とその加工品の種類が多い						52%
【飲食】安い						26%
【飲食】ここにしかない独自の飲食物がある						25%
【トイレ】清潔		26%				21%
【トイレ】多目的トイレがある						21%
【宿泊・休憩】足湯・温泉				25%	32%	

「商品の独自性、トイレの清潔さ、足湯・温泉」などの機能がある道の駅を整備することで、高頻度で利用する来訪者を獲得できる。

計画地周辺にあれば使いたい施設の機能

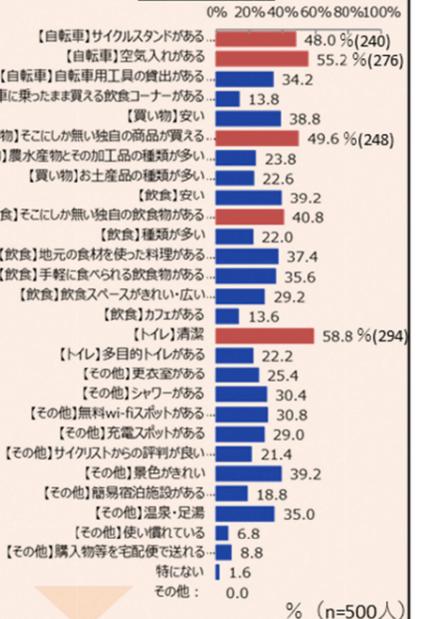
各施設の回答者を全数として、20%以上の票数を獲得した項目のみ抜粋

	うみたまご	田ノ浦ビーチ	かんたん港園
【買い物】お土産が買える		21%	
【飲食】そこにしかない独自の飲食物がある	21%		
【飲食】地元食材を使った料理が食べられる	28%		
【飲食】手軽に食べられる飲食物がある			31%
【飲食】カフェがある		49%	24%
【宿泊・休憩】足湯・温泉	20%	40%	24%
【宿泊・休憩】無料駐車場	29%		27%
【その他】子どもが遊べる	26%		25%
【その他】携帯・スマートフォン等充電スポット		21%	
【その他】無料wi-fiスポット	23%		32%

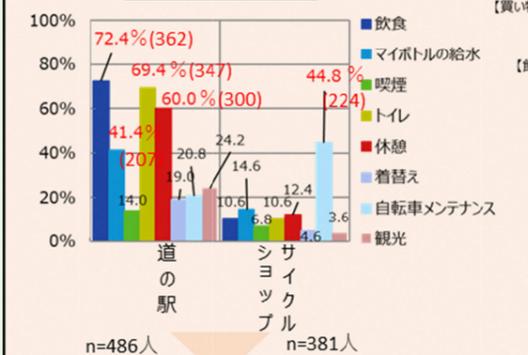
「足湯・温泉、カフェ、無料駐車場、子どもが遊べる、無料wi-fiスポット」などを計画地の施設に導入することで、周辺観光地の利用者も取り込むことができる。

九州・沖縄地方は、春・秋だけでなく冬にも20% (100人/500人) 以上がサイクリングに訪れており、関東地方、関西地方から訪れる人も多い。

サイクリングの際に立ち寄る施設の特徴



サイクリングで立ち寄る施設と利用目的



道の駅の主な利用目的は、「飲食、トイレ、休憩、マイボトルの給水」。「自転車のメンテナンス」機能を入れることでサイクルショップの役割も担うことができる。

「サイクルスタンドがある、空気入れがある、独自性の高い商品がある、トイレが清潔」などの特徴がある施設はサイクリストが立ち寄りやすい。

新設する憩い・交流拠点施設へのニーズを以下のように整理する。

- 物販は、そこでしか買えないオリジナル商品などの「独自性」や大分市内・県内の農産物・加工品の品ぞろえの豊富さなど「地域性」に関する要望が多い。
- 施設は、清潔で広いトイレや無料wi-fiスポットなどといった利便性に関する要望や、カフェや足湯、展望所、子どもの遊び場など、リラックスしてゆったりと時間を過ごすことのできる空間の要望が多い。
- 計画地におけるサイクリスト用拠点の要望は高く、関東や関西からの集客も望める。サイクリング中に道の駅へ立ち寄る人は多く、サイクルスタンドや空気入れの貸出などといったメンテナンスを含めたサイクリストの利便性を確保することが求められる。サイクリストにとっても、独自性の高い商品やトイレの清潔さの要望は高い。